

# 2025年度「教育と福祉の連携に関する学習会」のご案内



この学習会は、特別な支援ニーズをもつこどもと保護者に関わる公立保育所・幼稚園・小中・養護学校の先生方を対象に、福祉と教育相互の理解と対応力を高めることを目的として、昨年度からスタートしました。オンラインで気軽に集まって、現場に役立つ特別支援に関する知識や連携について学び合いましょう。

	開催日	時間・方法	テーマ	内容（※変更する場合があります）	申込締切日	お申込
第1回	6月6日(金)	16時～17時  オンライン (Zoom)  ※ログインは 15時40分開始	市立発達支援センターと 相談窓口・医療機関の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立発達支援センターについて 個別相談で行っていること（課題の整理と支援の検討） 保護者への紹介の仕方</li> <li>教育・福祉・医療の各機関の役割、困った時の使いわけ</li> </ul>	5月29日(木)	
第2回	10月17日(金)		こどもの特性理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>改めて、発達障害特性のとらえ方、見方について</li> <li>家庭に困難さがある子の発達（愛着障害など）</li> <li>支援目標の設定</li> </ul>	10月3日(金)	
第3回	1月16日(金)		保護者の理解と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題のある子を育てる保護者の心情理解</li> <li>さまざまなタイプの保護者との対話の仕方</li> </ul>	1月5日(月)	

## 【申込方法】

- 各回の二次元コードを読み取っていただき、**お一人ずつ**お申し込みください。
- 第1回から第3回まで、締切日までは年間を通じて申込可能です。
- 申込み後にキャンセルされる場合は、右記の明石市立発達支援センターまで電話かメールをお願いします。

## 【参加対象】

- 子どもと保護者に関わる方であれば、どの役職の方でも、各所属から何名でも、ご参加可能です。

## 【当日の参加方法】

ミーティングID「760 630 1039」 パスコード「yougo135」  
URL <https://us02web.zoom.us/j/7606301039?pwd=OTJCYWQvcE05U0JENFRGeVplVG5BZz09>

- 所属から複数名お申込の場合は、**可能な限り1所属につき1台の端末**でご視聴ください。（参加台数に上限があるため）
- 当日の資料は、前日までに各所属あてに送ります。（**教育は校支援システム、保育所・幼稚園はメール**）
- Zoomの**表示名を「各所属の名称 人数」に変更し、カメラはオン、マイクは「オフ」**でご参加ください。
- 事前質問以外で、当日質問したい場合は、チャットに入力していただくようお願いします。  
皆様のご質問全てには答えられない場合もございますが、ご了承ください。  
質問時は指名しますので、マイクをオンにしてお話しください。
- 各回終了後に、簡単なアンケートにご協力いただきます。

## 【お問い合わせ】

明石市立発達支援センター  
担当：長井・石田・植垣  
TEL：078-918-5841 FAX：078-918-5843  
Mail：hattatsushienka@city.akashi.lg.jp

明石市立明石養護学校  
担当：西本・森田  
TEL：078-918-5935 FAX：078-918-5936

## 参考) 昨年度ご参加された先生方の声♪

### 第1回 「教育と福祉の地域資源の活用」 68名

- どんな場合にどこにつなげばいいか、どう連携を取っていいかわからなかったのも、とても参考になりわかりやすい資料でした。
- 発達支援センターへ紹介して良いか迷うこともあったので、つなぎ方、どんなことに気をつければいいかがとてもわかりやすく、勉強になった。
- 長期的なスパンでの具体的な支援方法が大変勉強になりました。保護者の姿も段階的に変化するので、捉えて対応する大切さも学びました。
- 発達支援センターで行っていることや、こういったことに気をつけて相談につなげばいいのかが大変わかりやすく、担任に相談された時の参考になりました。



### 第2回 「医療機関との連携」 79名

- 今知りたい情報とともに、そもそも知っておくべきこと、保護者や子どもに勧める際の考え方という一番本質的なことから手続きまで、必要十分な情報をわかりやすく教えてもらい、有難かったです。
- 受診を保護者に提案するとはどういうことなのか、から説明してもらい、メリットも具体的に知れた。何の検査ができて何が明らかになるのかを知っておく重要性を強く感じた。
- どこを案内すればいいか困っていたが、保護者の希望をしっかりと聞いた上で複数提案することや、支援センターに相談していいこともわかり、心強く思った。
- 早い診断より、なぜ診断するのか、これからどうしていくのか子どもの将来まで考えて、ニーズとタイミングを考えて勧める必要性に気づけた。

### 第3回 「保護者対応」 58名

- 保護者に伝えるべきことをどのように伝えればいいのか、具体的な言葉で整理され、すごくスッキリしました。今回の言い方を活用していきます。
- 何人もの保護者の顔が思い浮かびました。一度に保護者に伝え切ろうとしてしまうことがあり、また教師が子どもについてわかった気になってしまうこともあります。保護者に合わせて、現状だけでなく支援方法もセットにして、スモールステップで話すことが大事だと感じました。
- どの段階でどこまで話すか悩むことが多いですが、熱意で課題のみ伝えるのではなく、段階的に、具体的手立てを、集団適応の課題として伝える、というのが大変参考になりました。
- 実際に悩んでいる点についてたくさん話があった。「早ければいい」という考えも負担になりかねない、子どもを主語にして子どもの願いを伝えることも効果的、とわかった。
- 教育者だからこそできる伝え方や対話の仕方を改めて整理することができました。

